

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	社会福祉事務に要する経費(鎌ヶ谷市福祉健康フェア)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	1	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくれます	担当課室	社会福祉課			
施策	111地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	高橋 徹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	毎年度同時開催していた自治会ふれあいラリー(平成24年度参加者2,238人)が市民まつりへ移動したことにより、フェアの来場者数がどのくらいになるか把握が難しいため、広報メディアなどの十分な活用を図り周知していく。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	来場者へのアンケートにより、フェアに対するニーズを把握し、次年度につなげていく。
②①に基づく取り組み結果	福祉健康フェアの単独開催及び悪天候により来場者数が約1,600人となったが、参加団体の充実した展示や各種体験等により、来場者に満足していただけた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	乳幼児から障がいのある人、高齢者までの全ての市民。	意図(対象をどうするのか)	地域のすべての人が共に支えあうまちづくりを進めていく。
②事務事業の概要	福祉、健康、ボランティア関係の参加団体がそれぞれの活動の特徴を活かした様々な催しを提供することによって、乳幼児から障がいのある人、高齢者まで、すべての人々が楽しめる体験型のイベントを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化の進行による介護の予防、健康や食生活などの意識拡大。震災や竜巻などの自然災害によるボランティア活動の増加。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	平成25年10月20日(日)に開催し、自治会ふれあいラリーが市民まつりに移行したことと、悪天候により、来場者数が例年より減少したが、参加団体の充実した展示や各種体験等により、来場者に満足していただけた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	フェア来場者数	0	2,500	1,600	人	業務取得
	ii	フェア参加団体数	0	39	39	団体	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	98	98	金額(千円)	内容		98	
国支出金(千円)			98		鎌ヶ谷市福祉健康フェア負担金		
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	98	98			98		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	福祉、健康、ボランティア団体及び行政で実行委員会を設置し、市民と行政との協働で実施しているが、経験の継承が課題となっている。					
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	フェアを通して、市民や参加団体(当事者団体、ボランティア団体、行政関係団体)の交流を大切にしつつ、広く市民の健康福祉に対する理解を深めるため、維持・継続としたい。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	民生委員・児童委員に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	1	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくれます	担当課室	社会福祉課			
施策	111地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	高橋 徹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	ひとり暮らし高齢者世帯の増加などにより、民生委員が担当する担当区域の世帯数が増加してきているため、民生委員・児童委員(現行:149名)の増員を図る。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	支援を必要とする地域住民に円滑な相談活動を行えるよう、民生委員児童委員を引き続き支援していく。
②①に基づく取り組み結果	平成25年12月の一斉改選により、民生委員児童委員の増員(8名)が図られた。定員149名⇒157名)		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	民生委員・児童委員。	意図(対象をどうするのか)	支援を必要とする地域住民に円滑な相談活動を行えるよう支援する。
②事務事業の概要	民生委員・児童委員の調査、相談活動を行うための活動費を補助する。(会長会、理事会、研修部会、地区定例会、活動支援、研修会、各種調査等)			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化、核家族化の進行に伴って援助を必要とする世帯の増加が見込まれ、これから一層民生委員児童委員の果たす役割が大きくなってきている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	平成25年1月から市内6地区の地区民生委員推薦準備会を実施し、地域の関係団体(地区民児協、地区社協、自治会など)の協力により、25年12月の民生委員児童委員の一斉改選がスムーズに図られた。(新任50人、再任104人。欠員3名。)						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	民生委員児童委員数	149	149	157	人	業務取得
	ii	相談・支援件数	1,760	1,897	1,735	件	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	6,156	6,463	金額(千円)		内容	6,512	
国支出金(千円)			41		推薦会報酬		
県支出金(千円)	447	457	4,764		民生委員報償	471	
市債その他(千円)			1,656		民生委員児童委員協議会補助金		
一般財源(千円)	5,709	6,006	2		旅費	6,041	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	ひとり暮らし高齢者や生活困窮者の増加、子育て支援の拡充など多種多様な課題について、民生委員の負担が重くなってきており、民生委員へのフォローが課題。					
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	25年12月の民生委員児童委員の一斉改選で委員の新旧交代があった(新任50人、再任104人)ことにより、新任民生委員に対する支援が重要となるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H24からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	流用・充当					
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	バリアフリー化施設整備助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	1	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくれます	担当課室	社会福祉課			
施策	111地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	高橋 徹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価の掲げた内容	平成25年度からの実施事業のため、平成24年度については評価の対象外。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	東武アーバンパークライン新鎌ヶ谷駅の内方線付き点状ブロック敷設に対する補助を行う。
②①に基づく取組み結果	平成25年度からの実施事業のため、平成24年度については評価の対象外。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の各駅	意図(対象をどうするのか)	視覚障がい者の安心安全な移動円滑化が図られる。
②事務事業の概要	鉄道事業者が実施する内方線付点状ブロックの設置に対し、補助金を交付する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	鉄道駅のバリアフリー化の推進に基づき、国、事業者、自治体が事業費の3分の1ずつ負担して駅舎のバリアフリー化を進めていく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	新京成電鉄鎌ヶ谷大仏駅及び北総線新鎌ヶ谷駅ホームに内方線付点状ブロックが敷設され、視覚障がい者等の転落の防止が図られた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	バリアフリー化が図られた駅			2	駅	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)		3,866	金額(千円)	内容	4,667		
国支出金(千円)			3,866	バリアフリー化施設整備助成事業補助金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		3,866			4,667		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	内方線付き点状化ブロックの敷設は利用者1万人以上の駅が対象となっているため、対象から漏れた駅が課題。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	視覚障がい者等の転落を未然に防ぎ、障がい者等の安心安全な移動円滑化に寄与する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	補助金の支出。	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	新京成電鉄(株) 1,766千円 北総鉄道(株) 2,100千円	6,100	6,100	当初	0	3,866	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越	0		現年分	3,866
③達成状況	完了			補正	6,100			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)	0			

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	総合福祉保健センター改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	2	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくれます	担当課室	社会福祉課			
施策	111地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	高橋 徹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成25年度からの実施事業のため、平成24年度については評価の対象外。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	早期に改修工事の契約を締結し、安全かつ適正に工事を実施していく。
②①に基づく取組み結果	平成25年度からの実施事業のため、平成24年度については評価の対象外。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	総合福祉保健センター。	意図(対象をどうするのか)	総合福祉保健センターの長寿命化が図られる。
②事務事業の概要	公共施設の長寿命化に関する基本方針に基づき、総合福祉保健センターの外壁・屋上防水等の改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成3年9月に竣工して以来、22年以上が経過し、施設や設備等の老朽化が目立ち、特殊建築物の定期検査においても、外壁等の劣化の指摘を受けている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	施設の改修工事に必要な実施設計を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	修繕に係った経費	1,123	1,096	2,505	千円	業務取得
	ii	工事請負費	9,032	1,334	0	千円	業務取得
	iii	大規模修繕(500万以上)の本数	0	0	0	本	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)		8,000	金額(千円)	内容		124,800	
国支出金(千円)			8,000	工事設計委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		8,000				124,800	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	25年度に委託した設計を完了し、円滑に工事を進める必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	限られた期間と予算から長期に亘らないよう注意が必要であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	実施設計の委託	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	実施設計の完了 8,000千円	11,430	10,968	当初	11,430	8,000	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越			現年分	8,000
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当	-462			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)	0			

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	生活保護に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	3	2	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	社会福祉課			
施策	115安心して暮らせる社会保障の充実	担当課室長	高橋 徹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	生活保護制度は国の法定受託事務であるため、市単独で改革することは不可能である。また生活保護世帯の増減については、景気の状態をそのまま反映するためのコントロールすることは難しい。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	平成27年度より自立支援制度が本格導入されるため、平成27年4月実施に向けて準備が必要である。
②①に基づく取組み結果	経済の一部には回復の傾向が見られるが、生活に困窮する者は減少せず、生活保護世帯は増加している。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	生活保護受給世帯。	意図(対象をどうするのか)	自立支援。
②事務事業の概要	日本国憲法第25条に規定する理念に基づき、生活に困窮する者に対して、困窮の程度に応じ、生活扶助、教育扶助、住宅扶助、医療扶助、介護扶助、生業扶助及び葬祭扶助の給付を行い、最低限度の生活を保障し、併せて自立を助長する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	年金の受給権のない高齢者や働けない者の増加により、今後とも生活保護受給者の増加は見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果						
②成果を表す指標	指標名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i 生活保護受給世帯	788	870	921	世帯	業務取得
	ii 年間訪問件数	2,995	3,155	3,183	回	業務取得
	iii 年間の一世帯あたりの訪問件数	4	4	3	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)	内容	平成26年度予算	
事業費(千円)	2,027,078	2,190,425	金額(千円)		2,592,505	
国支出金(千円)	1,628,081	1,719,228	2,190,425	生活保護費(国・県・市)	1,943,930	
県支出金(千円)	49,725	47,422			49,725	
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	349,272	423,775			598,850	

＜資料提出等(中央決定)＞

事務事業	115	115	115	115	115	115
事業費	2,027,078	2,190,425	2,190,425	2,592,505	2,592,505	2,592,505

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	昨年に比べ、生活保護受給世帯数に対して、廃止件数が伸び悩んでおり、受給期間の長期化が懸念される。				
②評価	i 市関与の妥当性	iii 公平性	v 総合評価 6精査・検証		
	ii 有効性	iv 効率性			
③上記評価の理由	生活保護制度は国の制度であり、また生活保護世帯の増減は、景気の状態をそのまま反映するため、市としてコントロールすることは難しい。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	平成25年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績		当初	H24からの繰越	
		0	0	
③達成状況		補正	現年分	
		0	0	
④未完了・非着手の理由	平成26年度への繰越額(単位:千円)			